



特別寄稿 オバマと小浜

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 環境社会医歯学系専攻
医療政策学講座 政策科学分野

河原和夫

米国の民主、共和党の大統領候補も決まり、11月の本選挙に向けて各陣営とも必勝態勢で臨んでいる。民主党では、当初断トツの支持を集めていたクリントン候補を制したのはオバマ候補であった。この予備選挙の期間、福井県小浜市ならびに市民がオバマ候補を応援する勝手連を作り、太平洋を越えて熱いメッセージを送っていたことはマスコミでも報道された。

*

筆者は医聖、杉田玄白先生の出身地である小浜市に設けられた「杉田玄白賞」の審査委員を務めており、同市とは昔から少なからぬ関わりがある（写真1）。前市長で今年8月に退任した村上利夫氏とも懇意にさせていただいている。そこで改めてオバマと小浜の因縁について触れ、あまり報道されていない話題も披露したい。

*

ことは若狭小浜出身の入国管理官、あるいは税関職員がいてオバマ氏が来日した際、パスポートのObamaという名前を目にした職員はとっさに、「私は小浜の出身です」と言い、以後オバマ氏も「私は日本の小浜の

出身です」とのジョークを用いたという。このオバマと小浜の初めて関わりが芽生えた後に、当時の村上市長がオバマ氏に手紙と若狭塗の夫婦箸を贈った。しかし、返事はこなかった。そしてこの事実は記憶から薄らいでいった。

*

これらの出来事は、いずれも予備選が始まる前の話であった。したがって、一部マスコミでは、小浜市は偶然オバマ氏とスペルが同じだということだけで、予備選を利用したり便乗したりしているという批判が見られたが、それは当を得ていない。事実は予備選前から小浜市は片思いのメッセージを送っていたのである。

*

時を経て、予備選の様相が日本でも報道され、オバマ氏が民主党の大統領候補として立候補しているのを知り、市の関係者と市民に以前の記憶がよみがえりオバマ氏を応援することになり、再び市長がオバマ氏に手紙を送った。マスコミが報道を始めたのはこの時点からである。



写真1 向かって左から杉田玄白賞審査委員長の須藤正克前福井医科大学学長、審査委員の行天良雄先生（医事評論家、元NHK解説委員）、そして筆者河原和夫

今度はオバマ氏からお礼の手紙が届いた（写真2）。そして街はオバマ一色となった。勝手連が結成されたのはすでに述べたが、「オバマまんじゅう」が若狭小浜の観光土産となり、地元の“大統領”というパチンコ店が「小浜 大統領」と宣伝し、火曜日は出玉のスーパーチューズデーとなった。なお、オバマまんじゅうは酒饅頭でキャラクターとしてオバマ氏風の似顔絵の焼印が押されている。しかし注意していただきたいのは、肖像権などの問題からオバマ氏らしき人物の後ろ姿が刻まれていることだ（写真3、4）。実物にはお目にかかっていないが、クリントン・ロールという栗きんとん（クリキントン）を入れたロールケーキもあるらしい。こちらは売り物ではないみたいで催しがあるときに作られたようだ。

*

こうしたオバマフィーバーも予備選の決着により一段落した感がある。しかし、これで小浜市の売りが尽きた訳ではない。オバマ氏の手紙にもあるように、小浜市は文化、歴史、伝統を有する地である。いにしえ

には小浜の地は数少ない「御食国（みけつくに）」として朝廷に食糧を供給した由緒ある国だ。また、小浜市は「海のある奈良」という別名を持っている。仏教伝来の地であり神社仏閣が多く古い仏像も数多くある。ゾウが初めてわが国にやってきて上陸した地でもあり、東大寺二月堂の「お水取り」に用いる水を奈良に送る「お水送り」の伝統行事が行われる地でもある。塗り箸の生産量は全国の約9割を占めている。ぜひ、一度小浜市を訪ねていただきたい。

*

この町おこしでもいうべきフィーバーの中心的役割を担ったのは前市長の村上利夫氏だ。去る8月4日は村上氏の退任の日であった。この日、8月4日は「箸の日」であり、そしてオバマ候補の誕生日でもある。何か深い因縁めいたものを感じずにはいられない。

*

最後にこの紙面を借りて、2期8年市長の要職を務められた村上利夫氏の御苦勞をねぎらいたい。

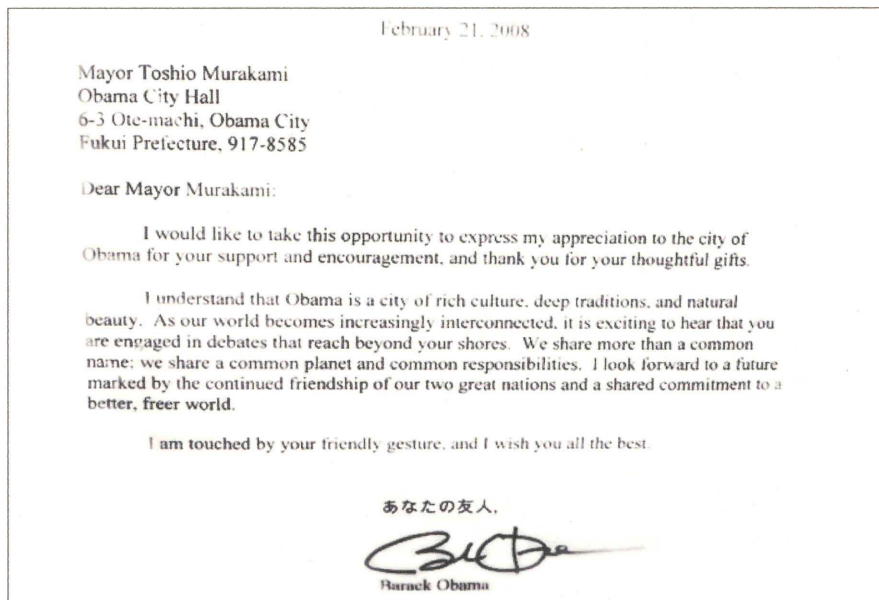


写真2 オバマ氏からの返信



写真3 オバマまんじゅう（おばまん）



写真4 オバマまんじゅうの焼印